

令和5年度小松市立矢田野小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	自ら主体的に活動し、互いの良さを認め合える児童の育成 <生徒指導3機能を生かした授業づくりや学級づくりの共通実践> ①一人ひとりが主体的に考えて行動することができるように、4つのステップを全職員で共有し、児童への関わりを進めていく。 ※4つのステップ①目的意識を持つ②見通しを持つ③自己決定する④責任をもって行動する ②振り返りを行う際に教師が積極的に価値づけや意味付けを行い、更なる主体性の向上を図っていく。	・年度初めに4つのステップを職員全体で共有し、それを生かして取り組みを進めた。教職員の毎月の振り返りでは、ほとんどの教職員がそれを意識して取り組みを進めている状況である。 ・2学期は、運動会などの大きな行事が予定されている。その行事を進めるにあたり、再度4つのステップを全体で共有していく。具体的には、①運動会の目標を決める、②本番までの見通しを持つ、③自身が頑張ることを決める、④行動（練習）する、⑤振り返りという流れである。振り返りの際には、教師による価値づけを忘れずに行い、主体性の向上を図っていきたい。	
特別活動	自分たちで楽しくよりよい学校を作ろうとする児童の育成 ・学級をよりよくするためにクラス会議に取り組み、児童の主体性や学級の自治力の向上を図る。 ・児童会活動を通して、自分たちで学校をよりよくする、盛り上げるための活動を計画し、実践する。 ・児童議会で、学校全体に関わる問題解決の方法を話し合ったり、楽しいイベントを企画・提案する。 ・縦割り活動を2か月に1回実践し、他学年同士の関わりを深める。	・楽しい学校をつくるため、クラス会議でクラスをよりよくしようと考え実行したり、委員会で様々なイベントを企画し実行できたりして、学校全体に活気が生まれた。 ・縦割り活動（名称：やさしいDay）を2か月に1回実+C10施したことで、6年生の「企画・進力」が身に付いてきている。また、学年を超えて児童相互の仲も深まった様子である。 ・2学期は運動会ややたのんびっくなど、縦割りで関わる行事がいくつかある。クラス会議で各行事の目標を決めたり、そこへ向かうための自分たちの在り方を共有したり、学校全体が前向きに楽しく過ごせるよう、担当者が支援したい。	
特別支援教育	<自分と相手を大切にし、意欲を持って前向きに生活できる児童を育てる> ・児童の情報や職員間で共有し、児童理解の会や校内委員会等の場を活用し、児童の特性を共通理解し、職員相互で協議して個に応じた支援策を考え、共通実践を進めていくことで支援していく。 ・校内の人材（SC、心の相談員、支援員）を有効に活用し、児童・生徒に寄り添い、その困り感を支え、意欲を持って前向きに生活できるように支援する。 ・幼保小中の連携を密にし、長期間で子どもの育ちを支援する。	・毎月の児童理解の会では、気になる児童についての情報共有を行うことで、職員の協力体制を築けるように努めた。特別な支援を要する児童について、適宜ケース会議や校内委員会を設定し、支援策の検討、実施に努めた。気になる児童については、協力体制を築いた後に、定期的な様子の確認を今後行っていききたい。 ・SC、心の相談員には、児童に寄り添って教室の内外で関わって頂いた。おかげで、児童は登校できた。また保護者面談等に向けて、アドバイスを頂き、話し合うポイントを整理できた支援員には、特別支援学級在籍児童や学習に集中できない児童等に寄り添って支援をして頂いた。 ・夏季休業中に、幼稚園を訪問し、園児の様子を参観して、情報収集を行い、来年度入学予定の園児の実態把握すること、幼稚園と連携を図り、円滑な入学を支援していきたい。	
（キャリア教育） 道徳教育	<自他のよさを見つめ、前向きによりよく生きようとする児童の育成> ・学級活動や総合的な学習の時間を中核として、自他と関わり、積極的によさを見つけることができるように支援していく。 ・係や委員会活動に進んで取り組み責任を持ってやり遂げられるように、定期的に振り返るなどの支援をしていく。 ・個々の目標や課題に前向きに取り組む、解決したりやり遂げたりすることによって満足感が味わえるように支援していく。	・4月に、学年のゴールでの姿を思い描かせて児童主体で作った目標を柱として、日々の学習活動を行っている。また、折に触れて目標に立ち返り、学年のゴールを見据えて今の自分やクラスの姿を捉え、道徳の時間の学びとも関連付けながら前向きによりよい生き方を選択していけるように支援している。 ・道徳の時間や学活、帰りの会などを通して、自他のよさの認め合いを継続することで、自己肯定感、自己有用感の高まりが見られ、よりよい集団づくりにもつながっている。 ・2学期以降も、児童が中心となって活躍する場を設け、新たな課題を解決し前向きに進んでいけるよう支援に努めたい。 ・道徳の時間の学びと生活を結び付けるなどして、道徳の時間を要とした道徳教育を進め、児童のよりよい成長につなげていく。	
図書教育	<読書の習慣化と質的向上を図り、不読者をなくす> ・おすすめの本を10冊以上読むと、プラス1冊券が、10冊以上読むと、プラス2冊券がもらえる。おすすめの本を読むことで、読書の質的向上を図る。 ・いしかわ学校読書の日（小松市民読書の日）には、毎月3冊貸し出す。「先生のための図書だより」を発行し、担任からの声掛けをする。不読者をなくす。年に2回夏休みと冬休みには、親子読書にも取り組み、保護者にも読書に関心を持ってもらう。親子読書は95%の提出を目指す。 ・国語の授業で、年1回は並行読書を活用する。	・いしかわ学校読書の日（小松市民読書の日）には、毎月3冊貸し出している。それにプラスして、おすすめの本を達成した児童はさらに本を1冊借りることができる。いろいろな取り組みを通して、読書の習慣化が身につけている児童が半数いる。 ・しかし残りの半数の中には、月に貸し出しが2冊以下の児童の数が一定数いる。一人当たりの本の貸出数は、32、7冊で、引き続き声掛けをしていきたい。夏休みの取組である親子読書も今年は、95%を目指している。 ・関連読書は、1学期末の時点で4つの学年が活用できた。学校研究との取組と合わせて、関連図書の一覧表を提示し全学年が活用できるように声掛けをしていく。	
保健教育	自分の身体や健康に関心を持ち、健やかな心と体を育む児童の育成 ・「ミニ健康指導」を、年間2回実施する。 ・規則正しい生活を送るために、早寝早起き朝ごはんを推奨する。 ・感染対策予防として、ハンカチを毎日持つこと。 ・お口の中の清潔や虫歯を防ぐために、給食後は、歯磨きをする。 ・これらによる成果を検証する。	・9月には、の健康」について、1月には「感染症の予防」について、身体計測の後に、ミニ健康指導をする予定である。 ・夏休み明け生活習慣が乱れがちである。また9月から運動会の練習も始まる。しっかりした生活習慣を確立させるために、2学期は、毎月保健だよりで、「早寝早起き朝ごはん」を呼び掛けていく予定である。 ・毎朝の健康観察で、ハンカチ・はなかみを持ってきているか児童に聞いている。ほとんどの児童は、ハンカチ・はなかみを持ってきている。良い傾向と思われる。 ・1学期は、全学年に歯科指導を行った。また、保健委員会も、「歯磨きビンゴ」の取り組みをした。その振り返りの中で、「歯磨きの大切さが分かった。これからも歯磨きを続けていきたい。」と書いている児童がとても多かった。 ・2学期は、自分の身体や健康に関心を持たせるために、全学年にタブレットで、9月に心のアンケート、10月に保健アンケートを行う予定である。	
体育	自分の身体や健康に関心を持ち、健やかな心と体を育む児童の育成 ・学期ごとに体育の授業で行った効果的なウォーミングアップや練習、場の設定を職員間で共有する。 ・体育の授業改善として、スモールステップで達成感が感じられる環境やルールを設定し、運動特性に合わせた授業設計をする。どの学年でも「体育が好き」と答える児童が70%以上になることを目指す。	・1学期末に授業の設定や指導方法について共有できた。カリキュラム上2学期に実践できる学年もあるので、参考に体力づくりに努めることができると考える。 ・5月時点で「体育が好き」と答える児童は、1年96%、2年98%、3年98%、4年94%、5年90%、6年93%であった。科目や時期による影響もあると思うので2学期も継続して達成感を得られる授業づくりをしていく。	
学校関係者評価	安全について ・下校時刻に幅があり因一学校として帰りの会の時間の統一する。残り学習について共通確認（時間・保護者連絡・一人で下校させないなど）し、保護者や見守り隊とも連携し、安全を守っていく。 ・熊対策…下校後も安全行動がとれるように指導してほしい。南部地区に熊が出たときは、緊急メールを配信する。小松市からの防災メールのチェックを保護者をお願いする。 体力・運動能力アップについて ・スゴチャレ石川に積極的に取り組み、体力アップに努める。 ・体育の時間に、遊具を使ったサーキットトレーニング等も取り入れてはどうか。そのために市に毎年要求してはどうか。 ・休み時間には、昔の遊びで運動能力の向上を図ってはどうか。そのためにおいちゃんおばあちゃんお父さんお母さん地域の方に遊びを覚えてもらう活動をしてはどうか。		